

次の文章をよく読んで、後の設問に答えよ。

私のこれまでのわずかな経験からいっても、演劇や音楽のような舞台芸術では準備のための稽古けいこ、練習の段階と本番との間には大きな差がある。極端な場合、足の踏み場もないくらい混乱した状態ですべてがバラバラに横たわっていた空間と、万事あるべき場所にあるべき姿で収められている空間との違いほどの差がある。芝居や音楽をやっている人たちはその変化、変転への期待、楽しみがあればこそ、舞台作りに励んでいるのではないかと思われる。彼らには、その違いが大きければ大きいほど楽しみも大きいのではないかとさえ言いたくなる。無から有が生まれることさえあるのだから。

私が初めてベルリンに行ったのは前世紀の中頃なかごろ、まだドイツが東と西に分かれていた頃である。ある日、そこで知り合った英国の新聞記者に「今、東ベルリンでベルトルト・ブレヒトとその劇団が《コーカサスの白墨の輪》という劇を公演するためりハーサルの最中だという。一緒に見にいかないか」と誘われた。

勝手の違う東側へ行くのは少し心細くもあったが、当時は二十四時間以内だったら、西から東へ検問所の検査さえ通れば、楽に行き来ができた。

ブレヒトと彼の劇団ベルリナー・アンサンブルのリハーサルを見る機会などめつたになかろう。それに英国の記者と同行なら心強い。「よし、行こう」と決心した。

めざす劇場は検問所からあまり遠くないところであり、稽古もそこでやっていた。私たちの行った時は、その稽古も大分進んだ段階に入っていて、本公演の行われる舞台の装置などあってもないも同然の、ほとんど裸の舞台だったと思う。

その舞台に向き合った客席のほぼ中央に関係者一同が陣取っていて、ブレヒトはその中にいた。ブレヒトを見るのはその時が初めて。でも、すぐわかった。だって、その人は人物の出入りから、しゃべったり身ぶりをしたりするすべてにてきばきと指示を与えているのだから。ブレヒトは大声でしゃべり、舞台上の役者たちは同じことを繰り返しやらされる。見てるだけでも根気のいる仕事だが、それでも繰り返す間に^①剃刀の刃のように薄いが鋭い違いが見えてきたりもする。

(引用先 2010 大阪市立大学―前期
吉田秀和「音楽展望」(『朝日新聞』二〇〇九年一月)

問

とは、どのよう**傍線部**①「剃刀かみそりの刃のように薄い**が鋭い**違い」
と、どのよう**な**違いか、わかりやすく説明せよ。